

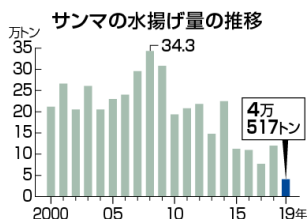
甦れ、三陸の豊かな海 Part1

三陸海の森づくりプロジェクト —ブルーカーボン創出と沿岸漁業活性化のために—

三陸の海の現状

東日本大震災を乗り越えて

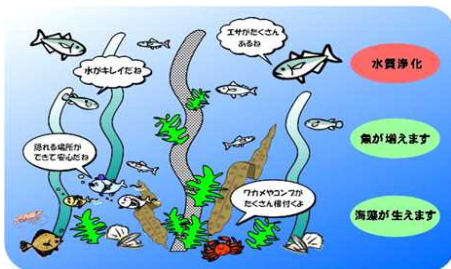
2011年発生の東日本大震災で、三陸海岸は甚大被害を受け、復興事業にて陸部整備は進んだが、海洋は回復していない。震災は、地域主産業である漁業に、多大な損害を与えたが、近海漁獲量の減少は、震災以前からも兆候は見られていた。



持続可能な海洋環境の創生

- ① 海藻と海洋生物の生物多様性の保全と再生
- ② 海洋生物の繁殖環境再生による海洋生態系の復活・再生
- ③ 沿岸漁業所得向上を図り、後継者不足解消と地域活性化
- ④ 藻場によるCO2吸収量増大による温室効果ガス排出抑制
- ⑤ 海洋植物CO2吸収→炭素固定によるブルーカーボン創出

海の森生態経済価値は、熱帯雨林の29倍、亜寒帯林の50倍



海の森づくり手法：人工基盤

◆海藻基盤設置

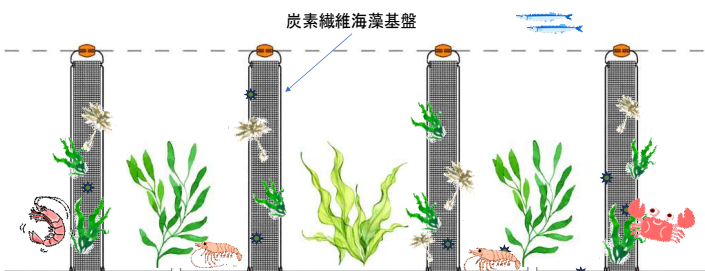
海藻胞子を着生させるため、炭素繊維海藻基盤を設置する。海藻基盤に着生した胞子は、海藻に成長し繁茂すると胞子を発生し、周辺に着生させて、より大きな藻場を形成する。

◆海藻養殖事業

海藻基盤設置域に、予め海藻胞子を着生させたコンブ種糸を設置し、磯焼け海域で早期に安定して藻場を形成させる。

◆食害生物の駆除・畜養

ウニを捕獲し、海藻を餌として、ウニ・ナマコを畜養販売。



深刻化する三陸の海の磯焼け

- ① 三陸の海は、親潮と黒潮がぶつかる豊かな漁場だったが、黒潮大蛇行により親潮の運ぶ栄養分が沿岸海域に届かない。
- ② 河川と海水が混ざる汽水域に、内陸部の森林破壊、ダム、河川整備等により、陸部から供給される栄養分が減少した。
- ③ ウニが増え海藻類を食べ尽くし、海藻藻場形成が難しい。
- ④ 沿岸の防潮堤整備により、陸から海への栄養分が止まる。



※磯焼けとは？
海藻の群落(藻場)が急激に枯死する現象で、海の砂漠化とも呼ばれる。

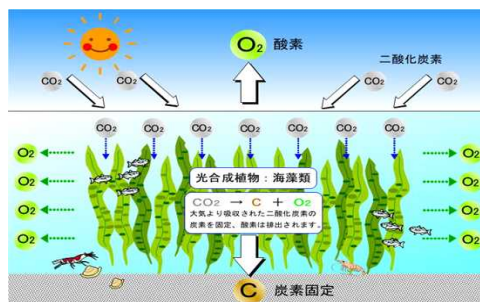
ブルーカーボン創出

■ブルーカーボン

海洋生態系が光合成にてCO2を吸収し、その後海底や深海に蓄積される炭素。主要吸収源は、藻場(海藻・海草)、干潟、マングローブ等、ブルーカーボン生態系と呼ばれる。

■Jブルークレジット

海洋植物(海藻・海草)が吸収する温室効果ガスを対象にしたカーボンクレジットで、購入者は、海の環境を守る活動に出資しながら脱炭素・カーボンオフセットができる。

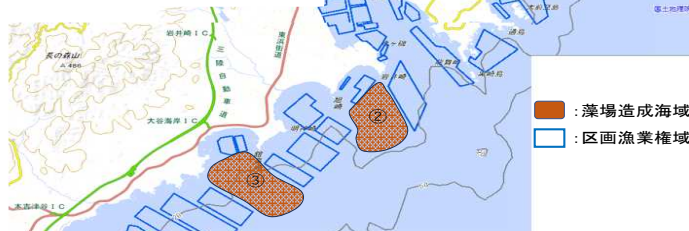


三陸海の森づくり 計画海域

藻場造成計画海域面積(第1期)

- ① 100ha
 - ② 450ha
 - ③ 500ha
- 合計 1,050ha

※成果を基に、随時造成面積を拡大
※気仙沼計画海域総合計: 2,350ha
※気仙沼から三陸の海全域へと拡大



“三陸の豊かな海の再生・復興”
ご支援・ご協力をお願いします

(共同事業体)
労働者協同組合 気仙沼未来
〒988-0631宮城県気仙沼市三作浜81-1
URL: <https://miraiforum.com/>
Email: info@miraiforum.com
TEL: 050-3154-0797

■お問合せ、お申込み
NPO法人 ジャパン・ウォーター・ガード
〒370-0018群馬県高崎市新保町1665-1
URL: <https://ngojwg.org/index.html>
Email: info@ngojwg.org
TEL: 027-350-7351